

大阪市立住まい情報センター

令和7年度 年間事業報告書

指定管理者

大阪市住宅供給公社・アクティオ共同事業体

目 次

○大阪市立住まい情報センター 概要	・ ・ ・ 1
1. 指定管理業務の実施状況	・ ・ ・ 3
2. 各事業の実施報告	
(1) 相談事業	・ ・ ・ 7
(2) 普及・啓発事業	・ ・ ・ 11
(3) 広報事業	・ ・ ・ 15
(4) ライブラリー事業	・ ・ ・ 19
(5) ホール・研修室等の運営事業	・ ・ ・ 21
(6) 展示事業	・ ・ ・ 22
(7) 住まい・まちづくりネットワーク事業	・ ・ ・ 31
3. 利用者モニタリング等の実施状況	・ ・ ・ 33
4. 自主事業	・ ・ ・ 40
5. 収支決算状況	・ ・ ・ 41

大阪市立住まい情報センター 概要

■施設概要

施設名称	大阪市立住まい情報センター
所在地	大阪市北区天神橋6丁目4番20号
施設規模	敷地面積：3,392 m ² （うち大阪市部分2,113 m ² ） 構造規模：鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造 地下1階／地上10階 延床面積：5,195 m ² （全体19,560 m ² のうち、3階の一部、4階、5階の一部、7階の一部、8～10階）

■施設の構成

① 住情報プラザ（4階）

- ・相談カウンター…………… 住まいに関する一般的な相談・情報提供
- ・相談ブース…………… 専門家相談（法律、建築・リフォーム、資金計画）、連携機関による定期相談（建築、税務）
- ・ライブラリー…………… 住まい・建築・大阪に関する図書・絵本などを配架
- ・来館者用パソコン端末コーナー… 来館者が、住まいに関する情報などを検索・収集できるパソコン端末を設置

② ホール（3階）・研修室（5階）……

住まいに関するセミナーなど多彩なイベントを実施
市民や各種団体等への貸室利用
ホールの最大収容人員……300人
研修室の最大収容人員……70人

③ 住まいのミュージアム（8～10階）…

大阪の住まいや人々の暮らしの歴史を再現
『大阪くらしの今昔館』

同一建物内に、大阪市営住宅募集センター、大阪市住宅供給公社、大阪市立男女共同参画センター子育て活動支援館、三井住友銀行がある。

■指定管理者

団 体 名	大阪市住宅供給公社・アクティオ共同事業体
主たる事務所の所在地	大阪市北区天神橋6丁目4番20号
代 表 者	理事長 田中義浩（令和8年3月31日現在） （担当者 大阪市立住まい情報センター 所長 正垣豊治） （06-6242-1160）
指 定 期 間	令和6年4月1日から令和11年3月31日までの5年間

■施設の開館時間等の実績

○施設の開館日数

	住情報プラザ	住まいのミュージアム 『大阪くらしの今昔館』
開館日数	305 日	299 日
うち臨時開館日	0 日	15 日
うち夜間等の開館日	0 日	0 日
臨時休館日	0 日	10 日※

※展示替えのため4月14日～4月19日まで5日間臨時休館（休館日除く）、9月8日～9月13日まで5日間臨時休館（休館日除く）した。

○住情報プラザの開館時間等

開館時間

	住情報プラザ	ホール・研修室
平日・土曜日	9:00～19:00	9:00～21:00
日曜日・休祝日	10:00～17:00	9:30～17:00

休 館 日 火曜日（休祝日の場合は翌日）

休祝日の翌日（日曜日、月曜日の場合を除く）

年末年始（12月29日～1月3日）

○住まいのミュージアム『大阪くらしの今昔館』の開館時間等

開館時間 10:00～17:00（入館は16:30まで）

休 館 日 火曜日

年末年始（12月29日～1月3日）

展示替え期間（4月14日～4月19日、9月8日～9月13日）

入 場 料 一般 600 円 団体 500 円（20人以上）

高・大学生 300 円 団体 200 円（20人以上）

※中学生以下、障がい者手帳等をお持ちの方（介護者1名を含む）、市内居住の65歳以上の方は無料

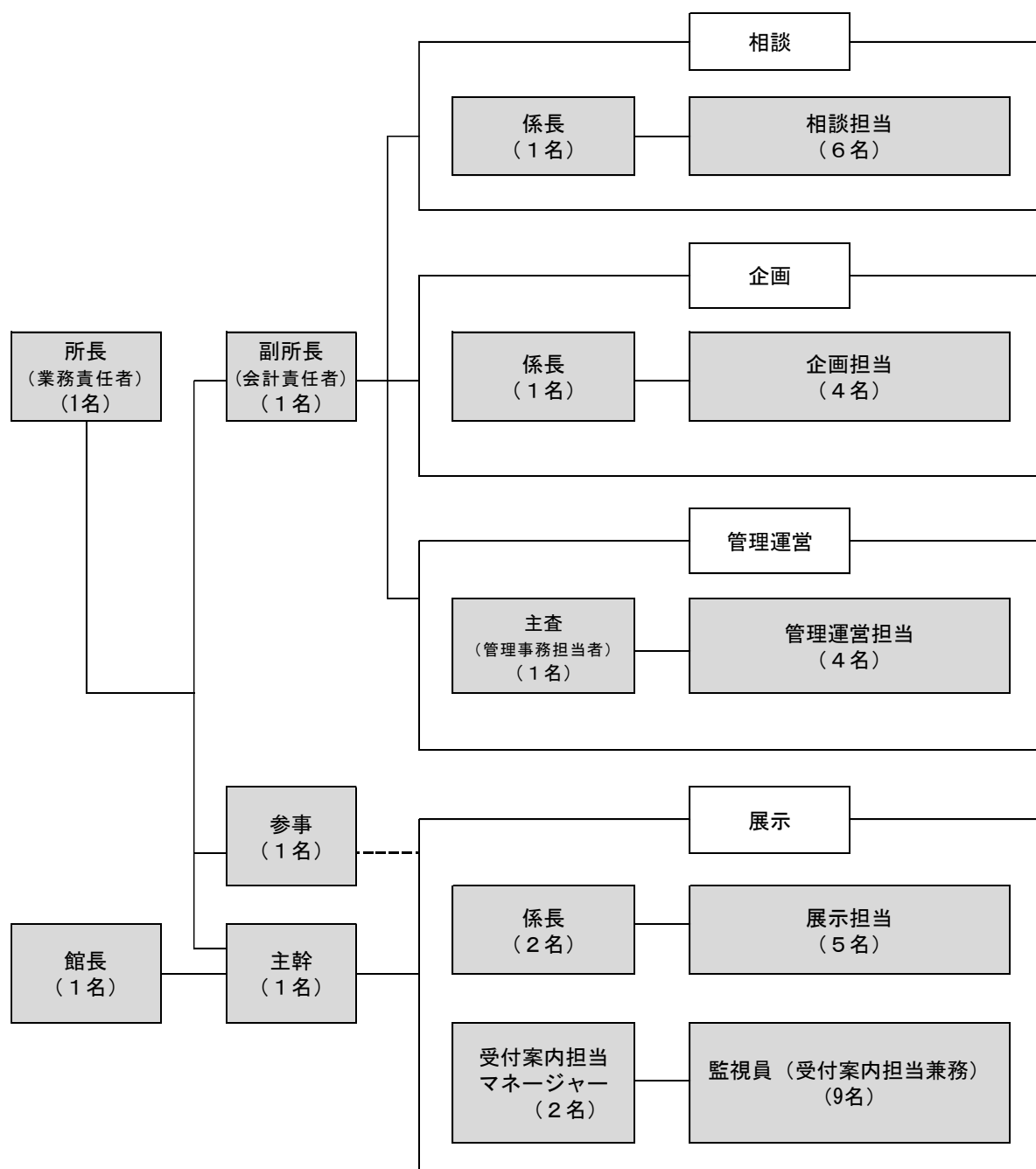
1. 指定管理業務の実施状況

(1) 施設の運営体制

○職員配置状況

- ・公の施設の管理者として、施設の設置目的や事業内容を十分に理解して運営を行うとともに、日常業務で得た情報や集計・統計データ、調査・研究の成果等を大阪市の住宅政策の企画・立案に反映させるという重要な役割を担うことができ得る職員を配置した。

<組織図 令和8年3月31日>



【障がい者雇用状況】（令和7年6月1日現在）

- ・大阪市住宅供給公社

雇用人数 248名 うち障がい者数 8名 （雇用率 3.23%）

- ・アクティオ株式会社

雇用人数 1,325.5名 うち障がい者数 38名 （雇用率 2.87%）

※短時間労働者は0.5人として計算

○職員の勤務ローテーション

- ・住情報プラザ、大阪くらしの今昔館それぞれの開館時間や、ホール・研修室の開館時間は異なるが、ローテーション勤務とすることで、いずれの開館時間中どの時間帯でもサービスの質と安全性を確保した。
- ・毎月1回は全員出勤日を設け、ミーティング等による情報共有を行い、担当者間の連携を深め、円滑な事業推進や課題の解決に向けた業務改善を図った。

○研修の実施状況

- ・障害のある方に対する合理的配慮に関する研修を全職員対象に実施した。
- ・個人情報保護の研修や、人権問題等に関する研修を全職員対象に実施した。
- ・生成 AI の利用環境及び 注意事項に関する研修を全職員対象に実施した。
- ・災害や人命救助の対応を的確に行えるよう、消防訓練や普通救命講習を実施した。
- ・センター事業で必要な、専門的な知識や最新の情報を得るため、他団体が主催する住まい関連のセミナー、講座等に参加し、入手した資料をミーティング等において共有化した。
- ・大阪くらしの今昔館の案内・受付員については、新人研修、スキルアップ研修、接客・対応研修、人権研修等を実施した。

（2）維持管理に係る事項等

○日常点検、事故防止対策等

- ・事故や故障等を未然に防ぐため、職員による施設内の巡回に加え、開館前、閉館後の住情報プラザや大阪くらしの今昔館の設備等の点検を実施した。
- ・ホール、研修室等については、利用前に設備等の動作確認を行い、利用後には設備の作動不良や備品等に汚損などが無いか、毎回点検した。
- ・万一の場合に備えるため、大阪市が加入している施設賠償責任保険に加えて、レジャー・サービス施設費用保険や業務遂行に起因する法律上の賠償責任の補償を対象とした施設所有管理者賠償責任保険に加入している。

【維持管理業務の実施項目】

- ① 貸室のＡＶ設備の保守点検等（年１回実施）
３階ホール・５階研修室ＡＶ設備保守点検
- ② 常設展示室修復業務（年１回実施）
常設展示室 町家、道路等その他の補修及び清掃
- ③ 展示室の蒸気加湿器保守点検業務（年２回実施）
配線・基盤等の点検、シリンダー等の清掃及び交換
- ④ 展示機器の保守点検業務（年１回実施）
機器の各種動作確認、消耗品の劣化状況確認及び交換
- ⑤ 特別収蔵庫・収蔵庫・展示室 総合的有害生物管理業務
（ア）二酸化炭素殺虫処理年１回
（イ）常設展示室殺虫処理年１回
（ウ）環境調査①モニタリングトラップ調査 年１１回②浮遊菌調査 年２回
（エ）IPMメンテナンス 年１回
- ⑥ 管球類、消耗品などの交換・補充（随時）
蛍光灯や展示ケース内の調湿保存剤など交換、補充
- ⑦ ＩＴＶ監視モニター設備保守点検業務（年１回）

○危機管理体制

ア．火災への対策

- ・当建物全体の入居者とともに、消防訓練を２回実施した。
- ・火災時を想定した役割分担を作成し、対応マニュアル、避難経路図、及び緊急連絡系統図を職員に配付・周知し体制を整えた。

イ．地震への対策

- ・住情報プラザおよび大阪くらしの今昔館に、最寄りの避難所までの案内図を掲示している。
- ・「地震時における住まい情報センター職員の行動マニュアル」に基づき、非常時に迅速に行動できる体制としている。

ウ．暴風警報発令時の対応

- ・暴風警報発令時および台風接近時の対応については、「暴風警報発令に伴う事業の休止等の取り扱いについて」に基づき、セミナー・シンポジウムの中止や、大阪くらしの今昔館の臨時休館の判断を行い、来館者やセミナー参加予定者に周知した。

エ. その他緊急時の対応

- ・住情報プラザ及び大阪くらしの今昔館に AED が設置されており、事故発生時における職員の緊急連絡網および対応マニュアル、セミナー開催時における緊急対応マニュアルを作成し、職員に配付・周知した。
- ・大阪くらしの今昔館では、火災や地震等の災害時に加え、不審者・不審物への対応や急病人・負傷者への対応等について、緊急時に安全かつ迅速に対応するため「緊急対応ポケットメモ」を作成し、各職員に配付した。

(3) 施設の有効利用

○住情報プラザを活用した情報提供

- ・大阪市の施策やセミナー等関連のテーマでパネル展を 10 回開催した。
- ・住情報プラザのスペースを活用し、住教育ワークショップコーナーや 24 区情報コーナー等の各種情報提供コーナーを設置し、行政や専門家団体等が発行したリーフレット等を中心に配架した。
- ・また、約 550 種類の資料等について、目的別に分類して分かりやすく配架した。
- ・出入り口付近に設置した「有料パンフレットラック」について、地元商店街で実施するイベント等のお知らせは無料で配架するよう取り扱い、柔軟な情報提供の場として活用できた。

2. 各事業の実施報告

(1) 相談事業

① 実施状況・実績

- ・住まいの一般相談では、公的賃貸住宅の募集情報、住まい探しや住み替えの相談、住まいの売買、建築、賃貸借、リフォーム、住まいの税金、住宅ローン、相隣トラブル、分譲マンション管理など、住まいに関するさまざまな相談に相談員が窓口および電話で対応した。
- ・公的賃貸住宅や民間賃貸住宅の情報はじめ、賃貸借・売買等に関する情報、建築・リフォーム等に関する技術的な情報、分譲マンション管理特有の課題に関する情報など住まいに関する情報提供を行った。
- ・専門家による対応が必要と考えられる相談については、専門家相談（法律、建築・リフォーム、資金計画、分譲マンション管理）で対応するほか、他の適切な機関等を紹介した。
- ・大阪市マンション管理支援機構主催の「マンション管理フェスタ 2025（9/23 開催）」に参加し、「住まい情報センターコーナー」を設置。チラシの配布等を通じて、分譲マンション管理相談会や住教育ワークショップコーナー等の周知に努めた。

○住まいの一般相談の実施

- ・公平かつ中立的な立場で、住まいに関する様々な相談に相談員が対応した。相談を実施する際は、まず相談者の話をお聴きして、問題解決に有効な情報提供や解決方法の提案、専門家相談の活用により支援を行った。なお、外国人には電話を利用した三者間通話による通訳を活用し、聴覚障がい者には筆談で対応した。
- ・相談の類型としては、公的賃貸住宅への住み替え相談、賃貸借の修繕、家賃値上げや原状回復によるトラブル、売買の一般的注意事項、建築リフォーム、敷地境界や騒音などの相隣トラブルに関すること、補助金に関する情報提供などが多くを占めた。

住まいの一般相談件数（情報提供含む）

来訪	電話	計
15,155	12,873	28,028

○住まいの専門家相談の実施

- ・専門性が高く、高度な相談については、弁護士、建築士、ファイナンシャル・プランナー、マンション管理士による個別相談を実施した。

- ・ 専門家相談は、一般相談で事前に相談員が相談内容を聴き取って整理し、専門家相談の流れや持参資料の案内を行った。また、専門家には相談員から相談内容の概略を伝え、より有意義な相談を行えるように支援した。

●住まいの法律相談	毎週 土曜日に実施（30 分/組×6 組）
●建築・リフォーム相談	隔週 土曜日に実施（40 分/組×4 組）
●住まいの資金計画相談	月 1 回 土曜日に実施（40 分/組×2 組）
●分譲マンション相談	
・ 法律相談	：月 1 回 日曜日に実施（45 分/組×3 組）
・ 管理一般相談	：毎週 木曜日に実施（45 分/組×4 組）
●マンション管理支援機構と共催の相談会	
・ 法律相談	：年 2 回（45 分/組×6 組）
・ 技術相談	：年 2 回（45 分/組×3 組）
・ マンション管理一般相談	：年 2 回（45 分/組×3 組）

住まいの専門家相談件数

法律	建築・ リフォーム	資金計画	マンション 管理	計
260	42	16	195	513

- ・ 関連団体との連携による専門家相談として、近畿税理士会による税務相談、公益社団法人大阪府建築士会による日曜建築相談を実施した。
- ・ 定例的に実施する法律相談に加えて、窓口に来ることが困難である場合や夜間にしか相談する時間が取れないなどの市民のニーズに応えるため、オンラインによるナイトー法律相談（住まいの法律相談）を 1 回実施した。

○相談データの活用

- ・ 対応した相談については、住まい情報センター管理運営システム内の「相談対応サブシステム」に入力してデータベース化し、内容を定期的に大阪市に報告した。
- ・ 相談データの分析から、セミナー・イベント等のテーマ設定や企画、資料展示、ライブラリー図書の選定等において、相談担当としての助言を行うなど、担当者間で積極的な意見交換を行った。
- ・ 従来の「相談対応サブシステム」から大阪市が内製するノーコード開発プラットフォーム「kintone」への移行作業に協力した。

○相談対応の充実

- ・分譲マンション管理に関する相談で、専門的な知識が必要な相談事項については、大阪市マンション管理支援機構を構成する専門家団体からのアドバイスを参考にした。
- ・法律相談の需要が恒常的に高い状況を踏まえ、2月21日（土）には相談枠を拡充して実施した。
- ・住まい関連の相談経験が豊富なアドバイザーを招き、月1回程度の定期的な勉強会を開催するとともに、相談対応のノウハウを蓄積した相談員向けマニュアルの内容を拡充し、相談対応の効率化と市民サービスの向上を図った。
- ・常に住まいに関する最新情報を収集し共有するとともに、相談員間での定期的な情報交換や、勉強会等を実施し、相談対応技能の向上を図り、高度な相談に対応できるよう努めた。

○住まい・まちづくり教育への取り組み

- ・住教育ワークショップにて、1/100サイズの白い模型の内側天井部分に色を塗ること
で、光の反射による室内雰囲気の違いを楽しむ「あかりのあるおうち」等、想像力や
考える力を養う子ども向けの住教育を実施した。提供いただいた廃棄予定のクッシ
ョンフロアや壁紙、カーテン生地等の材料を利用して、住宅に使われる身近な材料に触
れることで住まいへの関心をもってもらい、楽しく学びながらおうち作りをする機会
を提供した。6月からは、大阪・関西万博開催にあわせた住教育ワークショップの取
り組みを実施。住教育コーナーを万博カラーに模様替えして、6/1～8/9は、「わたし
のミニパビリオンをつくろう！」、8/10～9/13は夏休み特別企画として「とんがり帽
子のパビリオン」を実施。大阪・関西万博のシンボルである「大屋根リング」の模型
を制作し、その中に子どもたちの作品を配置して撮影するなど、展示方法にも工夫を
凝らした。材料には提供いただいた廃棄予定の外国製クロスなど多様な住まいの素材
を使用し、万博と住まいの両方を楽しめる内容とした。
- ・ライブラリー主催の「親子で楽しむ♪おはなし会&みんなでおうちをつくろう！
（9/14開催）」において企画担当と連携し、「空飛ぶクルマのあるおうち」をテーマ
に、おうち作り体験の機会を提供した。
- ・10/25、26は、「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪」に参加し、大阪市役所
に開設されたイベントインフォメーションにおいて住まいへの関心を喚起するととも
に、住まい情報センターの周知を図ることを目的として、「ミニおうちづくり体験キッ
ト」を2日間で100セット提供した。センター機関誌「あんじゅ」や相談チラシの配
布もあわせて行った。

- ・「結露に注意」「防災」をテーマに作成した A4 サイズのポスターを、1 階ロンドラの展示スペースと住教育ワークショップコーナーに掲示してトラブル予防のための啓発掲示を継続実施している。

② 相談事業におけるサービス向上・利用促進の取り組み

○相談窓口のネットワークの構築

- ・大阪市・神戸市・京都市の三都連携事業会議において、「災害時の支援制度、応急危険度判定等」をテーマとする勉強会に参加した。
- ・大阪市居住支援協議会設立検討に伴うヒアリングに参加し、居住支援相談に関する現状について報告した。
- ・大阪簡易裁判所による住まい情報センター相談員のための裁判所見学会に参加し、少額訴訟及び民事調停制度のレクチャーを受講し、裁判官等との座談会にて意見交換を行った。
- ・区役所の自立支援担当者と住宅要配慮者に対する住まい探しや居住支援について意見交換を行った。
- ・業界新聞社の記者と、マンション管理に関する情報共有、意見交換を行った。
- ・相談担当、ライブラリー担当、ミュージアム担当とのコラボ企画として「着物しおりプレゼント企画」を 1/4 に開催。ミュージアム来館者に対して、4 階住情報プラザ周知のためチラシやポスター等で 4 階へ誘導し、住まいのライブラリーにてボランティア手作りの「着物しおり」を約 100 枚配布した。

○資料の充実と探しやすさ、わかりやすさへの工夫

- ・相談担当は直接来館者と接するため、館内の催しを的確に案内できるように努めた。
- ・相談者が情報にたどり着きやすくするために、センター内の約 550 種類の資料を、目的別コーナーに分類し、案内表示を行った。
- ・「住まいの子育てコーナー」では、大阪市子育て安心マンション認定制度を始めとする大阪市の子育て世帯向け住宅支援制度のほか、住宅金融支援機構のフラット 35 地域連携型や、国民生活センター発行の子どもが巻込まれやすいくらしの危険の啓発リーフレット、大阪市こども相談センターリーフレットなどの資料を配架した。
- ・「高齢者情報コーナー」では、サービス付き高齢者向け住宅情報や、セーフティネット住宅登録情報、居住支援法人情報などの資料を配架した。
- ・ミュージアム担当と連携し、住情報プラザ内に「大阪くらしの今昔館コーナー」を設け、来館者に大阪くらしの今昔館を紹介した。

- ・「防災コーナー」では、防災マップ、ハザードマップをはじめ、防災関連資料を配架し、市民への啓発に努めた。
- ・国家資格（宅地建物取引士、マンション管理士、管理業務主任者）試験申込書を配布した。
- ・「おおさか・あんじゅ・ネット」にある、基本的なアドバイスと役立つリンク先等を取りまとめたコンテンツ「相談員からのアドバイス」、「知っておきたい住まいの情報」を、収集したデータをもとに更新した。

○公営住宅募集案内の充実

- ・市営住宅募集センター指定管理者による勉強会に参加し、定期募集への応募に関する相談や、申込書の配布等の情報提供に協力した。
- ・住情報プラザに申込書記載コーナーを設け、ゆっくり座って応募団地の検討や申込書の記入をしていただけるように配慮した。申込に関する情報提供や、最寄り駅からのアクセス、周辺施設がすぐにわかる市営住宅団地分布図を独自に作成し情報提供を行うなど、市民サービスの向上に努めた。
- ・市営住宅の定期募集時期以外についても、入居希望者の相談に応じ、定期募集や随時募集受付の窓口を案内するなど、適切に対応した。

（２）普及・啓発事業

① 実施状況・実績

- ・子育て層や若者、シニアまで幅広い層をターゲットに、住まいづくり・住生活のノウハウから住まいの歴史・文化まで、さまざまなテーマで各種セミナーやワークショップの開催、パネル展示等を行った。
- ・相談事業に寄せられた相談内容を踏まえたテーマ設定や、展示事業と連携した魅力的なイベント開催など、市民ニーズを捉えたセミナー内容の充実に努めた。
- ・聴覚に障がいのある方への配慮のため、手話通訳に対応できる体制を確保した。
- ・セミナー後に実施したアンケートでは、セミナー参加者の満足度が 98%を超え、質の高いセミナーが実施できた。

○令和7年度セミナー実績：総開催回数 65 回 参加者総数 3,168 人

事業	実施回数	定員		申込者数	参加者数		
		会場	オンライン		会場	オンライン	合計
住まいの基礎知識セミナー	21	1,050	2,100	1,184	437	376	813
住まいと暮らしのワークショップ	3	90	—	297	88	—	88
シンポジウム	1	150	—	250	180	—	180
ブックトークサロン	1	100	100	295	153	54	207
おはなし会	2	20	—	26	20	—	20
リサイクルブックフェア	1	100	—	218	79	—	79
今昔館関連イベント	3	300	—	554	339	—	339
タイアップ事業 (交流会を含む)	17	1,050	800	1,344	709	234	943
共催事業	3	50	50	195	118	49	167
出前講座	12	—	—	—	244	—	244
ハウジングデザイン賞関連イベント	1	100	—	139	88	—	88
合計	65	3,010	3,050	4,502	2,455	713	3,168

○令和7年度に実施した主なセミナー・イベント

住まいの基礎知識セミナー

テーマ：連続講座「住まいを購入する」

【第1回】住まいのお金編①「資金計画と住宅ローン」

【第2回】住まい探し編「はじめての住宅購入～自分に合った住まい探し～」

【第3回】戸建住宅編「戸建住宅を購入する」

【第4回】住まいの設計編「住まいをつくる／リノベーションする」

【第5回】分譲マンション編①「分譲マンションを購入する」

【第6回】分譲マンション編②「分譲マンションリフォーム前に知っておくべき基本事項」

【第7回】住まいの契約編①「重要事項説明書」

【第8回】住まいの契約編②「契約書」

【第9回】住まいのお金編②「税金と確定申告」

(計9回実施)

参加者数：(会場) 187 人、(オンライン) 156 人

はじめて住宅を購入しようとしている方を対象とした連続講座、住宅購入に必要な知識を、テーマを分けてシリーズ化して実施した。

住まいと暮らしのワークショップ

テーマ：親と子の都市と建築教室 2025「まちつく万博～未来につながるまちをつくろう～」(計2回)

参加者数：1回目 31 人、2回目 31 人

夏休み期間中、小学生を対象に、日本建築学会と大阪府建築士会との共催で、若手建築士や大学生などと一緒に、ダンボールを使って“まち”をつくり、ものづくりの楽しさを学ぶワークショップを実施した。

大阪市ハウジングデザイン講演会「借りて暮らす大阪―愛着の持てるリノベーション―」

参加者数：88 人

「パブリック・ハイツ」などの賃貸集合住宅のリノベーションを手掛けてきた建築家・宮部浩幸氏による基調講演と、ハウジングデザイン賞特別賞を三度受賞した株式会社アートアンドクラフトの枇杷健一氏をゲストに迎えた、両氏によるトークセッションを開催した。

チャレンジタイアップ事業

テーマ：生前整理と実家じまいのリユース活用術

参加者数：(会場) 74 人、(オンライン) 34 人

整理術のワークショップから実際のデータや市場の動向を基にした実践的なアドバイス、業者の選びの注意点などを紹介し、生前整理・実家じまいの具体的な進め方やノウハウを、リユースの視点を取り入れて解説した。

シンポジウム

テーマ：万博関連特別イベント国際シンポジウム「外国人から見た『和室』の価値」

参加者数：180 人

海外にルーツを持つ研究者の方々と、和室に造詣の深い日本人研究者の方々を招き、「歴史」「技術」「文化」「思想」など多様な切り口から、外国人の目に和室はどう映るのか、国際的な観点から共にその価値を探るシンポジウムを開催した。

○パネル展等による情報提供

- ・大阪市の施策やセミナー関連のテーマを主としたパネル展を 10 回開催したほか、大阪 24 区の情報や地域魅力情報、イベント紹介など幅広い情報を住情報プラザへ訪れる方に提供した。

実施期間	パネル展示タイトル
4月2日～4月29日	住むまち大阪スタイル人
5月1日～6月20日	第38回大阪市ハウジングデザイン賞推薦募集
6月21日～7月31日	災害に備えて住まいのためにできること
8月1日～8月31日	まちをつくろう！
9月1日～9月15日	防災月間パネル展「自然災害に備えよう」
9月17日～10月5日	第15回オープンナガヤ大阪 2025
10月6日～11月5日	【住生活月間】住まいの事例展～新築・リフォーム・リノベーション
11月6日～1月27日	いま考える「住まい」のリテラシー
1月28日～2月23日	住まいは地域を映す～神戸、大阪、京都、東京～
2月24日～3月30日	大阪市ハウジングデザイン賞受賞住宅

② 普及・啓発事業におけるサービス向上・利用促進の取り組み

○市民ニーズを踏まえた事業の実施

- ・今後のセミナーの企画立案や会場運営の参考とするため、セミナー開催時に参加者アンケートを行い、満足度や希望テーマを把握している。
- ・センターに寄せられた相談内容の分析・課題抽出を行い、「防災・空き家対策」、「居住支援・住宅セーフティネット」、「省エネ・脱炭素」「住まい・まちづくり教育」などを「タイアップ+（プラス）事業」の募集テーマに設定し、利用者が求めるテーマを反映したセミナーを実施した。

○多彩な広報活動の実施

- ・広報期間を原則2ヶ月以上確保し、セミナーやイベントのチラシやポスターを区役所等の公共施設や、Osaka Metro 42 駅に設置された広報掲示板に配架して幅広く周知した。
- ・ほかにも、セミナー内容と関連する公共施設へチラシ設置を依頼するなど、参加者増につながる取り組みを行った。
- ・新聞・報道関係者に対しプレスリリースを行い、セミナー等の周知を図った。
- ・ウェブサイト「おおさか・あんじゅ・ネット」によるイベントの告知及び参加申込の受付、メールによる参加証の送付など、インターネットを活用した広報により、市民の利便性の向上を図った。

- ・登録者数が 4,992 人となったメールマガジンを活用して新着イベント情報を配信した。メールマガジンは、いち早くイベント情報が届き、受信メールから簡単にイベントへの申し込みができるもので、会員から好評を得ている。

参加申込フォーム利用によるイベント申込者数

期間	参加申込者 総数 (A)	フォームからの 申込者数 (B)	B/A
令和 7 年度	4,610 人	3,730 人※	80.9%

※「おおさか・あんじゅ・ネット」の参加申込フォーム利用による参加申込者数

○共催事業の積極的な実施

- ・他団体等との連携・共催事業を実施しており、それぞれの強みや良さを活かしつつ、より効果的な普及啓発やセンターの PR を行っている。
- ・オープンナガヤ大阪 2025 実行委員会、大阪公立大学長屋保全研究会と共催で、大阪の長屋の活用事例を紹介するイベント「第 15 回 オープンナガヤ大阪 2025」を開催した。住情報プラザでのパネル展示やフライヤーを配架するなど広報面での協力を行った。

○他施設等との連携

- ・大阪市立男女共同参画センター子育て活動支援館との共催事業として、「知らなきゃ大変!? 女性の不動産相続 ～実家どうする? 嫁・妻の相続は?～」を開催した。親や夫から相続した不動産やいずれ相続する予定の不動産について、今後どうすべきか、相続についての考え方や、まず誰に相談をすべきなのか、遺産の分割や売却、空き家問題などをどう進めていくべきなのか、女性が知っておきたい不動産相続についての基本的な知識と手続きについて女性の司法書士が解説した。

(3) 広報事業

① 実施状況・実績

- ・住まいのガイドブック「あんじゅ」の発行や、ウェブサイト「おおさか・あんじゅ・ネット」の運営により、大阪市の住宅施策の案内や、居住地としての大阪市の魅力紹介、住まい・暮らしに役立つ記事を掲載した。
- ・「あんじゅ」は、取材した情報を発信する特集 4 ページ、専門家や著名人に寄稿を依頼するトピックス、コラム、住宅政策、大阪市立住まい情報センターの情報提供、今昔館ニュース（裏表紙含む）を基本的な構成とした。
- ・令和 8 年 1 月発行の「あんじゅ」105 号では、万博関連特別イベント国際シンポジウム「外国人から見た『和室』の価値」の特集を組み、マリ共和国出身の京都精華大学元学長で、現在は日本国際博覧会協会副会長を務めるウスビ・サコ氏による基調講演と、海外にルーツを

持つ研究者の方々と、和室に造詣の深い日本人研究者の方々によるトークセッションの内容を記事として掲載し、情報発信を行った。

- ・センター事業の広報については、Osaka Metro 駅や公共施設での広報誌・案内チラシの配架や、当建物の掲示板等の活用、ウェブサイトからの情報提供など、幅広く周知を行った。

○大阪市住まいのガイドブック「あんじゅ」の発行

- ・「あんじゅ」の企画にあたっては、事業企画会議でアドバイザーより特集のテーマや掲載内容について意見やアドバイスをいただき、大阪市の担当部署、制作スタッフと共に編集会議を開催した。
- ・ウェブサイト「おおさか・あんじゅ・ネット」に掲載する際には、紙面では掲載できなかった写真や情報を追加し、充実を図った。

発行回数	発行部数	送付先
年 4 回 (各 16 ページ)	各 1.5 万部	市民利用施設、大学、博物館、大阪市図書館等、住むまち大阪スタイル人等

●第 103 号 (令和 7 年 7 月発行)

特集：大阪の近代集合住宅のはじまり

大阪くらしの今昔館 news：

「対談：好きと熱意で一緒につくってきた落語大会 ―大阪くらしの今昔館 子ども落語大会の 20 年―」

大阪における博覧会のはじまり 「第五回内国勸業博覧会明細図」

トピックス：誌面セミナー 住まいの維持管理 住まいのリフォーム

●第 104 号 (令和 7 年 10 月発行)

特集：知っていますか？住教育の取り組み

大阪くらしの今昔館 news：

一万博記念展「大坂から大阪 住まいのか・た・ち」開催報告― 「大阪市営北日東住宅模型」

「これ、ぜんぶ風呂道具！？見立てで遊ぶ造り物」

トピックス：誌面セミナー

・住まいを購入する 「重要事項説明書」

・住まいを購入する 「売買契約書」

●第 105 号 (令和 8 年 1 月発行)

特集：外国人から見た「和室」の価値 万博関連特別イベント国際シンポジウムより

大阪くらしの今昔館 news：

「堂本印象『いの字絵本 恋の都大阪の巻』」「温故知新 ―うめの花平棗―」

●第 106 号 (令和 8 年 3 月発行)

特集：バイローカルムーブメント ―よき商いを守り育てる 365 日の住民運動

大阪くらしの今昔館 news：

まちかどから 400 年の歴史を体験する ―歴史目撃型 XR「大阪百世」の監修から 新収蔵品紹介 明治の東京を熱狂させた上方の「巨大三味線」

トピックス：リースバックとリバースモーゲージ 概要とその注意点など

○ウェブサイトの効果的な運用

- ・大阪くらしの今昔館ウェブサイトでは、一般向けとしてカレンダーにも展示コンテンツを掲示、メルマガ登録者へは企画展情報を自動配信し広報した。町家衆へのお知らせをボランティア登録したアドレスに一斉配信するなどウェブサイトの効果的な運用を実施した。
- ・X（エックス）、Facebook（フェイスブック）、Instagram（インスタグラム）なども活用し、イベント情報やライブラリーの新着図書案内による来館促進、ならびに開催報告を通じたセンター活動の周知を図るなど、幅広く効果的な情報発信を行った。

○センター事業の発信

- ・Osaka Metro 42 駅の広報ラックに「あんじゅ」や、セミナーチラシを配架、大阪くらしの今昔館のポスター掲示・チラシ配架を行った。なお、セミナーチラシの裏面に相談事業・貸室等の案内を掲載し、広報に努めた。

【Osaka Metro 駅広告】

- ・Osaka Metro 「天神橋筋六丁目」駅構内 2 箇所の電照広告枠に住まい情報センターの広告を掲示した。
- ・Osaka Metro 42 駅構内の掲示板でポスターを掲示し、セミナーや企画展のチラシを配架
- ・住まい情報センターの最寄駅である JR 「天満」駅の協力のもと、駅構内において大阪くらしの今昔館の案内ポスターを掲示していただき、PR 活動に努めた。
- ・住まい情報センター地下 1 階・1 階の電子掲示板や地下 1 階出入口、1 階出入口、3 階ホール、8 階ミュージアムに設置されている掲示板等を活用し、セミナーやイベントの開催時期や内容を取りまとめた一覧表を掲示し、わかりやすい広報に努めた。
- ・住まい情報センター 1 階の公開空地（ロトンダ内）に設置された展示ケース、ポスター掲示板を活用してセミナー・イベント情報や折々の企画展やイベントに合わせた展示により施設の PR を積極的に行い、通行する人々にセンターをアピールした。
- ・セミナー等については、広く市民の方々に参加いただけるよう、市民利用施設でのチラシ・リーフレット設置や市の広報紙等への掲載に加えて、ウェブサイト「おおさか・あんじゅ・ネット」を活用し広く情報発信を行った。
- ・住まい情報センター 4 階に、デジタルサイネージを設置し、住まい情報センターおよび大阪くらしの今昔館を PR 動画でアピールした。

○「年報」、「紀要・館報」などの発行

- ・住まい情報センター事業の一年間の取組内容を取りまとめた「年報」や、大阪くらしの今昔館の研究成果を取りまとめた「紀要・館報」を発行し、市民情報プラザや図書

館に送付した。また、住まい情報センターに視察・ヒアリングに訪れる方に対しての情報提供にも活用した。

【発行部数】 「年報」：400 部 「紀要・館報」：600 部

○「キャラクター」を活用した広報

- ・セミナーや展示等のチラシ、ウェブサイトの各種コンテンツ、住情報プラザの各種コーナー等において、住まい情報センターのキャラクター「すまじょーくん」を活用し、親しみのある施設としてのPRに努めた。
- ・住まいのライブラリーのキャラクター「すまいまる」をライブラリーの周知に活用した。



「すまじょーくん」と「すまいまる」

② 広報事業におけるサービス向上・利用促進の取り組み

○認知経路を踏まえた広報の強化

- ・各セミナーにおけるアンケート調査の結果をみると、セミナー情報の入手方法としてインターネット（メルマガ、ウェブサイト）やチラシのほか、大阪市発行の広報紙によるものが多いことから、おおさか・あんじゅ・ネットおよび外部イベント情報サイトへの掲載や、大阪市の広報部署への情報提供を積極的に行うなど、効果的な情報発信に努めた。
- ・大阪くらしの今昔館の各企画展については、近郊の住民への周知のため新聞広告や当館ウェブサイトなどに掲載した。
- ・夏休み期間の子ども向けセミナーやイベント等については、市内の小中学生対象のオンラインマガジンに掲載を依頼するなど、ターゲットに合わせた広報に努めた。
- ・地元商店会と連携し、広報紙あんじゅやセミナーチラシ、リーフレットなどについて、商店街の掲示板を利用して情報発信を行った。

(4) ライブラリー事業

① 実施状況・実績

- ・「住まい」「建築」や「住むまち・大阪」をテーマに図書・雑誌・機関誌・市発行の資料・企業広報誌・地域情報誌・ビデオ・DVD等を収集、配架するほか、子どもコーナーには親子で楽しめる住まい・くらしの児童書を揃え、「ライブラリー利用規則」に基づき適切に運営を行った。(令和7年度購入冊数198冊(新聞、雑誌を除く))
- ・蔵書については、住まい情報センターに寄せられた相談内容の分析や利用者からの声、新聞等の紹介記事等も踏まえて図書の選定を行うとともに、図書管理システムにおいて適切に管理した。
- ・大阪市マンション管理支援機構との連携により、マンション管理関連図書を配架し、資料の充実を図った。
- ・相談事業でよく受ける相談内容や、普及・啓発事業で行っているセミナー、大阪くらしの今昔館で開催している企画展など、各事業の関連図書を企画図書としてテーマを設定して展示することで、多くの貸出利用があった。

○利用状況等

- ・入館者数：27,326人(一日平均：90人)
- ・新規登録者数：222名
- ・図書貸し出し数：3,208冊
- ・蔵書数(令和8年3月31日現在) 図書：12,954冊 雑誌等：179タイトル

種別	住まい 住環境	住文化 住教育	建築 都市	住むまち ・大阪	絵本・ 児童書	参考 図書	雑誌	機関誌	企業 広報誌	ミニコ ミ誌	ビデオ DVD
冊数	4,014	905	2,329	3,132	1,210	1,364	(56)	(54)	(18)	(51)	(266)

※ () 雑誌等、ビデオはタイトル数を示す

○企画図書の展示

実施期間	企画図書テーマ
4月12日 ～ 4月30日	資金計画と住宅ローン
5月4日 ～ 6月6日	住宅購入
6月7日 ～ 7月3日	住まいのリフォーム
7月4日 ～ 8月7日	自然災害の備え
8月8日 ～ 9月11日	防災対策
9月12日 ～ 10月2日	「万博関連特別イベント国際シンポジウム」関連展示
10月3日 ～ 11月2日	空き家の管理・利活用
11月3日 ～ 12月4日	高齢期の住み替え
12月5日 ～ 1月9日	今からはじめる生前整理
1月10日 ～ 2月28日	災害に備える
3月1日 ～ 4月12日	ハウジングデザインシンポジウム関連本 「集合住宅の本を集めてみました」

○ライブラリー関連イベントの開催実績

- ・ライブラリーの利用促進につなげるため、「大阪の建築～身近な建築の楽しみ方～」をテーマ図書としたブックトークサロンを開催、当該図書の展示を行った。
- ・情報が古く配架しなくなった本を市民に提供するリサイクルブックフェアを開催した。初日の1月25日は事前申込制とし、抽選で選ばれた参加者を対象に、3階ホールで実施した。2日目以降は、残った書籍を集めてライブラリー入口付近に配置し、事前申込み不要で終日実施した。

リサイクルブックフェア 実施期間	利用者数	持ち帰り冊数
1月25日～2月28日	140	584

○ライブラリーボランティアの活動実績

令和8年3月末現在、50名の登録があり、主な活動として、図書の貸出・返却の受付、図書の配架、場内の書棚の整理、ライブラリー内の来館者案内を行った。

② ライブラリー事業におけるサービス向上・利用促進の取り組み

- ・セミナーの関連図書リストの配付や、大阪くらしの今昔館の企画展の関連図書リストの掲示・配布、ライブラリーでの企画図書展示など、センターにおける他事業と連携した一体的な運営により施設全体の利用促進につなげた。
- ・図書持ち帰り用紙袋の提供を実施した。

- ・様々なテーマのミニコーナーを設け、大阪のまちの魅力を紹介した。
テーマの例) ミュージアム図録、新着図書、「大阪ほんま本大賞（大阪の本屋と問屋が選んだ、ほんまに読んでほしい本）受賞作品」、「建築家（安藤忠雄など）」、「万博」
- ・また、「長屋のくらし」・「建築家」や、「セミナー_今からはじめる生前整理」「万博関連特別イベント国際シンポジウム」の関連展示、ブックトークサロン「大阪の建築～身近な建築の楽しみ方～」の関連図書等を展示した。
- ・図書館総合展「こんなにあります！あなたも使える専門図書館 2025」公式サイト内特設ページ・オンライン展示に「住まいのライブラリー」を掲載した。

（５）ホール・研修室等の運営事業

① 実施概要・実績

- ・３階ホールと５階研修室は、住まい情報センター主催のイベントやセミナー等に使用し、それ以外の時間帯については、「ホール研修室の使用案内」に基づき一般使用も広く受け付けた。
- ・建築関係団体などの住まい関連イベントに活用されているほか、研修やサークル活動などにも広く使用された。
- ・受付開始日に複数の申し込みがあった場合は公開抽選を行い、平等使用の確保に努めた。

○令和７年度のホール・研修室使用状況

貸室の種類	使用コマ数	使用可能コマ総数	平均使用率（％）
ホール	557	849	65.6
研修室	511	849	60.2

② ホール・研修室等運営事業におけるサービス向上・利用促進の取り組み

ホール及び研修室の利用率の向上のため引き続き次のとおり取り組みを実施した。

- ・ホール・研修室を終日使用する場合の使用料金割引
- ・附属設備の一部割引
- ・ホールと研修室（会議室）での飲食利用の受入れ（別途特別清掃料を徴収）
- ・ホール等の平面図や写真に加え、レイアウトや机・座席の配置のパターンをウェブサイト上で紹介することで、多様な使用目的に対応できる施設であることをPR
- ・インターネットの貸室検索サイトを用いた情報発信

- ・来館者がスムーズに目的のイベントにたどり着けるよう、当日の催しをデジタルサイネージに表示してわかりやすく案内した。
- ・天神橋筋商店街の情報掲示板で「貸ホール・貸研修室」の周知
- ・イベント開催時の荷物等事前預りサービス、発送サービスを実施。
- ・貸室使用後に発生したごみを引取るサービスを実施。

(6) 展示事業

① 実施状況・実績

- ・令和7年度の入館者数は355,721人となった。大阪で2025年日本国際博覧会が開催されるにあたり、特別展や国際シンポジウムなどを企画し、大阪の都市居住の魅力と歴史をPRした。
- ・常設展示の理解を深めるツールとして、来館者自身で楽しみながら学ぶことができるクイズ形式の「チャレンジオッター」日本語版（8・9階）、英語版（9階）を配布した。
- ・企画展は「住まいと暮らし」をキーワードに、所蔵品・寄託品の研究を進めた成果をもとに、大阪画壇の絵画作品、大阪の生活文化、都市文化や所蔵品を中心とする工芸品などを取り上げ、幅広い時代と多彩なテーマで展示を行った。
- ・高齢者大学や大阪市立学習センターなどの依頼に対応し、学芸員特別講座や出張講演を4回実施した。
- ・事業間連携として、万博記念展「大坂から大阪 住まいのか・た・ち」関連企画連続講座「大坂、都市居住文化の醸成ー都市居住文化の400年にわたる変遷を振り返るー」（5月17日、5月31日、6月14日）および、万博関連特別イベント国際シンポジウム「外国人から見た「和室」の価値」（9月27日）を実施した。

○入館者数（令和7年度）実績

(人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
17,588	30,363	27,853	28,804	33,699	26,203	31,837	32,249	28,129	29,021	38,571	31,404	355,721

○入館者数の推移

(人)

年度	H 13(※)	H 14	H 15	H 16	H 17	H 18	H 19
入館者数	142,628	150,045	150,032	146,830	142,980	156,230	158,699
年度	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26
入館者数	161,975	180,471	209,255	205,829	228,976	259,320	353,138

年度	H 27	H 28	H 29	H 30	R1	R2	R3
入館者数	522,240	576,217	587,364	621,296	414,959	51,533	60,628
年度	R4	R5	R6	R7			
入館者数	192,279	345,696	352,206	355,721			

※平成 13 年 4 月 26 日開館

○常設展

- ・江戸時代の大坂の町を実物大で再現している 9 階常設展示室では、「商家の賑わい」の展示として、年中行事にあわせた季節のしつらいとして誓文払い、七夕飾り、月見飾り、正月飾り、節分、雛飾りを行った。また、収蔵品の絵屏風、掛軸についても町家の座敷で公開した。
- ・映像とジオラマで近代以降の大坂の都市空間と住まいを紹介している 8 階常設展示室では、昭和 30～40 年代の世相を反映した、「ガスアイロン」と「電気アイロン」を小ケース内に展示し、ガスと電気を比較するなど来館者が興味を持ちやすいテーマを紹介した。

展示替え	概 要
商家の賑い	4 月 1 日～13 日、9 月 14 日～3 月 31 日
夏祭りの飾り	4 月 20 日～9 月 7 日
季節のしつらい	七夕飾り : 7 月 5 日～7 日 月見飾り : 9 月 24 日～10 月 6 日 誓文払い : 11 月 22 日～12 月 8 日 正月飾り : 12 月 24 日～28 日、1 月 4 日～12 日 節分の飾り : 1 月 25 日～2 月 2 日 雛飾り : 2 月 25 日～3 月 30 日

○常設展示室等におけるイベント・ワークショップ

- ・「乙女文楽」「狂言」などの古典芸能や、「今昔館に初もうで」「今昔館のひな祭り」などの様々なイベントを延べ 25 日間開催した。
- ・「万華鏡」「折り紙」「つまみ細工」「水引飾り」などの物作りワークショップや「紙芝居」「反物着装」などの見て聞いて楽しむ催しを計 213 回開催した。

○企画展

・「住まいと暮らし」をキーワードに、多彩なテーマによる企画展示を2回、今年度は大阪・関西万博を盛り上げる関連イベントとして、「大阪を知る」をテーマに万博特別展覧会を2回の合計4回を開催した。

万博記念展1 大坂から大阪 住まいのか・た・ち

会期：4月26日（土）～7月27日（日）

＊前期 4月26日（土）～6月9日（月）／ 後期 6月14日（土）～7月27日（日）

開催日数 79 日

入館者数：30,612 人

・大阪の都市居住文化 400 年にわたる変遷を振り返る展覧会。大阪特有の住まいや都市空間を示す絵画資料、図面、模型の他、年中行事や生活文化に関する書籍、家具、調度類など多彩な資料を展示した。万博で来阪した外国人にも大阪の歴史を分かりやすく伝えるため、展示解説にはすべて英訳を付けた。

万博記念展2 都市の祝祭－造り物から博覧会へ脈わうまち大阪－

会期：8月9日（土）～10月19日（日） 開催日数 58 日

入館者数：27,652 人

・江戸時代の大坂で遷宮の際に社寺境内での造り物と呼ばれた飾りや芸や技の披露かが街に活気をもたらしした。近代の大阪では数々の博覧会が行われ、これらが経済効果や技術・産業の発展ひいては都市の成長に寄与した。これらを「都市の祝祭」と位置づけ、時代の様相を探った。

大阪の商人が支えた芸術文化－浅野家伝来資料より－

会期：11月8日（土）～令和8年1月18日（日） 開催日数 57 日

入館者数：26,241 人

・江戸時代終盤より明治にかけて摂河泉の有力な商家の一つであった浅野家に伝来する掛軸を公開。江戸時代の後期に京阪で活躍した絵師や書家の師弟の繋がりや文化人たちの幅広い交流の中で形成されたことを読み解いた。

古民家を直して暮らす

会期：令和8年1月31日（土）～4月5日（日） 開催日数 56 日

入館者数：30,359 人

・大阪を代表する建築物やまちの景観を描いてきたイラストレーター綱本武雄氏が築 140 年前の古民家を修復・再生し、自宅として暮らし始める過程を、イラスト作品で物語風に紹介。作品に加え、修復工程の写真や詳細記録なども展示。「直す・つなぐ・暮らす」

をキーワードに、暮らしの再生、伝統的建築技術の継承、地域文化との関係性に迫る。
家の軸組模型や屋根葺き道具なども展示した。

○企画展関連の講演会等

- ・企画展では、関連イベントとして講演会やギャラリートーク、ワークショップを開催し、訪れた方に展示作品等の理解を深めていただけるよう工夫した。

講演会等の内容	実施日	参加人数
万博記念展関連イベント「カンナ掛け体験」	6月29日	241人
万博記念展関連ワークショップ 「ミニ大工体験・木の継ぎ方クイズ」	9月20日	84人
企画展「古民家を直して暮らす」トークセッション「古民家を直してつなぐ」	2月21日	157人
企画展「古民家を直して暮らす」特別企画「葺き実演」	3月14日	約80人

○資料収集・保管・修復

【購入】

- ・資料の購入にあたっては、住まいのミュージアム資料評価会議を設置し、資料の必要性、具体的な活用方法の評価や評価額の算定を行い、外部有識者の意見を聴取するなど幅広い観点から購入の妥当性について確認した。

- 職人図 紀竹堂 一幅
- 戎三郎鯛釣図 岡田半江 一幅
- 良宵宜行 菅楯彦 一幅
- 浪速ぶり 生田花朝 一幅
- 投扇興 中村貞以 一幅
- 處士観瀑蒔絵料紙文庫 島野三秋 一合
- 菓子器 菅楯彦 一枚
- 長町御救小屋着用目印 一枚
- 明治元辰とし 大阪市中立のき図 一枚
- 浪花新名所新政府 長谷川小信 一枚
- 坂府鉄道局 開業式之図 長谷川小信 一枚
- 七福神寶の賑ひ 長谷川小信 一枚
- はみがき引札 長谷川貞信 一枚
- 人參にほひ入り男女かみはえくすり 一枚

【資料の保管】

- ・資料の保管にあたっては、材質等に応じた適切な環境を保つとともに、セキュリティ対策も徹底した。

【資料の貸出し】

重要文化財「中井家関係資料」の貸出

- ・特別展「描かれたお城と城下町」 兵庫県立歴史博物館「二条御城御天守」ほか全6点
- ・在原業平生誕1200年記念特別展「伊勢物語―美術が写す王朝の恋とうた―」三井記念美術館「瀧殿八ツ橋共絵図」（宝永度） 1点
- ・特別展「文化財よ、永遠に 2026―次代につなぐ技とひと― 住友財団文化財維持・修復事業助成の成果展示」 泉屋博古館 数寄屋建地割 千利休好山崎妙喜庵有之（起こし絵図）ほか全6点

○研究成果

大阪の住居史・建築史研究

- ・大阪の長屋に関する研究と資料収集を行った。

大阪の美術に関する研究

- ・大阪市内において個人蔵の大阪画壇及び工芸品について資料調査研究を継続的に行った。
- ・天満天神研究会および天満宮所蔵天神画像の再調査への参加。
- ・鹿島美術財団「美術による調査研究の助成」を受け、「五井金水の粉本研究」を行った。

大阪の生活文化に関する研究

- ・館蔵資料工芸品の調査・研究
- ・寄託品、廣野カツ嫁入り道具（着物）に関する調査
- ・古時計クラブとの協力で「時の記念日」にちなんだ展示（6月7日（土）から7月27日（日））と9階唐物屋の店の間でワークショップ（6月7日（土）・8日（日））を実施
- ・天満市場との地域連携活動として、天満市場地車研究会への参画

研究事業の報告・広報

- ・年4回情報誌『あんじゅ』（一部をミュージアム関連記事で掲載）
- ・研究紀要・館報23号の発行
- ・「第2回三ツ屋根地車フォーラム」を共催（天満市場地車研究会による地車調査報告会）

○アカデミックボードの設置

- ・今昔館にふさわしい新たな企画やプログラムの開発に貢献していただくことを目的として、各分野において研究業績・展示実績のある人材、学位・専門資格をもつ人材を学術委員として委嘱し、館長を補佐するボードを設置した。
- ・アカデミックボード委員の設置により、資料購入や館蔵資料の整理にあたって、美術史的観点からの専門的助言を得ることができた。さらに、中井家資料については、修理の監督および貸出時の立ち合い、ならびに資料の学術的内容に関する問い合わせへの監修を担っていただいた。

○ボランティア「町家衆」の活動

- ・町家衆には、町家ツアー・ワンポイントガイド・町家衆イベント・ワークショップなどの実施や、今昔館が主催する数々のイベント運営にご協力いただいた。
- ・小学3年生を対象とした「体験学習」にご協力いただいた。(39日間、67回)
- ・建築系大学などの学生を対象に伝統木造軸組み模型を用いた「建築プログラム」を担う希望者を募集し、4回の練習会ののちに実施した。(16回)
- ・7月～9月にかけて、町家ツアー案内人としての活動を希望する方を対象に養成講座を実施し、新たに6名がツアー案内人として認定された。
- ・ボランティア主催で、のぞきからくり「地獄極楽」(8月10日、11月2～3日)を披露した。

町家ツアー案内人養成講座の開催

練習会 7月3日(木)、7月9日(水)、7月19日(土)、8月9日(土)

認定会 8月30日(土)、9月4日(木)

ボランティア向け講座の開催

第1回目 6月19日(木) 13時30分～15時

「所蔵品の画像でみる「水の町大阪」」 講師：学芸員 服部麻衣

第2回目 7月17日(木) 13時30分～15時

「日本の町並み保存 これまでとこれから」 講師：館長 増井正哉

第3回目 10月24日(金) 13時30分～15時

「世界遺産と歴史的風土一登録申請を通してみた」 講師：館長 増井正哉

第4回目 11月11日(火) 9時30分～12時30分

「千里山界限の大正ロマンを訪ねる散策会」 講師：学芸員 深田智恵子

○児童、学生等を対象にした学習支援

- ・小学3年生を対象に、昔の暮らしの生活体験学習を実施した。
- ・黒電話や手回し洗濯機など教科書で書かれている道具を紹介するとともに、実演を多用し、博物館で実物を見る良さを感じられるように配慮した。解説・実演補助は町家衆が対応した。
- ・大阪市内・市外の小学校 264 校、14,939 人の児童が今昔館を訪れた。そのうち体験学習には3年生を中心に 81 校、4,315 人の児童が参加した。
- ・大学生を対象とした博物館実習を実施し、受講を希望した 6 校の学生 6 名を受け入れた。
- ・新任教員研修を受け入れた。(2 日間 2 名)

② 展示事業におけるサービス向上・利用促進の取り組み

○今昔館の認知度向上のための広報活動等

- ・メディア対応
企画展の内容を中心に各メディアへ情報を発信した。
〈令和7年度取材実績〉 計 121 件
 - 新聞 11 件
 - テレビ・ラジオ 9 件
 - 情報誌・雑誌・コミュニティー誌等 24 件
 - ウェブサイト等 73 件
 - その他 4 件
 - 市関係広報媒体等 随時
 - 美術館・イベント情報媒体等 随時
- ・企画展等への集客を図るため、Osaka Metro42 駅への企画展のポスター掲示を実施したほか、新聞に広告 16 件、新たに Osaka Metro 車内吊り広告の掲出、阪急電鉄主要 5 駅において企画展のチラシ配置を実施した。また今昔館への集客のため、歴史系専門誌に 3 回、訪日外国人向け冊子に 6 回広告を掲載した。

○多言語対応の取り組み等

- ・8 階、9 階常設展示の解説は QR コードを用いて日本語・英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語の 4 か国語で対応しており、スマートフォン（電子媒体）を活用した展示紹介を行った。
- ・インフォメーション、ロッカー、休憩コーナー等の館内案内は日本語・英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語の 4 か国語表記とするとともにピクトグラムを用いた。

- ・来館者に配布するリーフレットについては日本語・英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語・スペイン語・フランス語の6か国語を用意している。「商家の賑わい」「夏祭りの飾り」の2つのバージョンを作成し、展示内容や展示位置がわかるようマップ及びQRコード解説の画像を掲載した。
- ・9階常設展示室風呂屋シアターでは、桂米朝と桂米團治の掛け合いで9階展示を紹介するコンテンツを上映。8階常設展示室で上映している「住まいの大阪六景模型」・「住まい劇場」に日本語・英語・中国語（繁体字・簡体字）韓国語の字幕を入れ、多言語対応をした。

○展示設備等の更新

9階

- ・音響システム・VCAユニット更新
- ・演出メイン制機器更新
- ・環境音響用アンプ類更新
- ・風呂屋シアタープロジェクター更新
- ・プロジェクター制御ライン線更新

ロトンダ及び9階

- ・音響プログラム改定、プログラム作成

○ミュージアムショップ

- ・7月18日（金）大阪メトロアドエラとコラボレーションで新XR体験「大阪百世」を開始した。

○電子チケット、キャッシュレス決済の環境整備

- ・海外からの観光客も含めたチケット購入のスムーズな支払いを可能とするためインターネットでの電子チケット購入及びキャッシュレス決済の環境を整備した。
（クレジットカード、電子マネー、QRコード、アソビュー、大阪周遊パス、ソノリゴ、JTRWEBなど）

○地域魅力の発信に向けた取り組み

- ・大阪都市魅力創造戦略2025の施策項目のひとつ「大阪の強みを生かした魅力創出・発信」の取り組みとして、天満・天神橋地域との一層の連携強化を目的として締結した天神橋筋商店会との包括連携協定に基づき、商店会との協力体制を強化しつつ、地域の都市魅力資源を活かした取り組みを継続した。

- ・天神橋筋商店会と協力し、今昔館の入館券を提示すると、商店街内にある一部の店舗で割引を受けられるサービスを引き続き実施した。
- ・9階常設展示室では、今と昔の祭の様子や、かつて天神祭に曳きだされた船形山車「天神丸」、船渡御を迎えるお迎え船に飾られた「御迎え人形」など天神祭り関連の展示を実施し、地域魅力の情報発信に努めた。
- ・天神祭期間中は地域各地の御迎え人形の展示施設を巡るスタンプラリーに協力した。また、祭当日、天満宮天神講を始めとする地元組織の協力のもと、常設展示室で大阪獅子舞や傘踊り、大阪締めを披露いただいた。
- ・天満天神繁昌亭や上方落語協会に協力いただき、第20回子ども落語大会を開催した。今昔館での審査会を経て、入賞者が繁昌亭の舞台上で観客を前にその芸をお披露目し、商店街を介してつながる両施設の連携を活かした地域の魅力を発信した。
- ・天神橋筋商店会主催の秋祭りの行進コースに加わり、9階常設展示室で獅子舞を披露いただいた。
- ・天満天神繁昌亭とのコラボレーション企画として、昨年度に開始した「チケ得」（相互施設のチケット半券を掲示することで割引を受けられるサービス）を引き続き実施した。

○外部団体との連携

- ・大阪教育大学の「コラボレーション演習」に協力し、6名の学生を受け入れ、デザインを工夫した町家衆イベントの外国語対応掲示物を作成するなどを行った。
- ・「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪（イケフェス大阪2025）（10月25、26日開催）」に参加し、9階常設展示室において、カンナがけ体験や町家2階の一般開放といった、木造建築について学べるプログラムを実施するなど、普段とは違う層への周知を図り、来館者の拡大に努めた。
- ・日本建築学会と連携して、「2025年度 建築設計展 第66回全国大学・高専卒業設計展示会」を企画展示室にて開催し、全国の大学及び高等専門学校の卒業設計優秀作を展示した。（会期：10月30日（木）～11月2日（日）開催日数4日 入館者数：352人 無料）
- ・大阪府登録文化財所有者の会が企画する「たてものの御財印めぐり」に参画し、大阪府下の登録文化財と建築文化の普及に協力した。
- ・包括連携協定に基づく共催事業として、大阪ガスネットワーク（株）エネルギー文化・研究所（CEL）と共催で「第2回 お出かけ今昔館 ～続・豊臣大坂城下町への旅」（6月29日）、「第3回 お出かけ今昔館 ～四天王寺と金剛組」（11月29日）、「第4回 お出かけ今昔館 ～空堀の路地と長屋を巡る旅」（3月8日）を行った。

- ・京都府立堂本印象美術館と連携し、シンポジウム『『いの字絵本 恋の都大阪の巻』とは何か 青年画家の心をとらえた大阪のまちと女性』（2月1日）を開催。日本画家・堂本印象と大阪のかかわりを紹介した。

○民間企業との連携

- ・阪急電鉄㈱との広報コラボレーション企画として、9階常設展示（商いの賑わい）の動画撮影後、阪急電鉄公式 TIKTOK にて配信され、いいね 63.9K の高い評価を得た。
また、阪急5駅への企画展チラシ設置協力により、新たな鉄道沿線への広報開拓につながった。
- ・㈱増進堂・受験研究社とのクイズコラボレーション企画として、当館が監修で8階、9階常設展のクイズプログラムの制作を実施。クイズはWEB公開され、クイズパンフレットを館内に設置し、マスメディア約20社に広くニュースリリース配信された。

（7）住まい・まちづくりネットワーク事業

① 実施状況・実績

- ・住まい・まちづくりにさまざまな形で取り組むNPOや専門家団体等と連携・協働し、大阪の居住地としての魅力を高め、その情報を発信するため、「住まい・まちづくりネットワーク」（住むまち大阪スタイル人）を設置した。
- ・住情報プラザ内では、住むまち大阪スタイル人等と連携し、団体紹介のパネル展や、各団体が行うイベント案内等の設置など、スタイル人の活動を広報した。
- ・センターとまちづくり団体等が連携して、幅広い住まいづくりの情報提供と大阪の文化や魅力を伝えるためのセミナーやイベント、まち歩きなどを行う「タイアップ事業」として、「チャレンジタイアップ事業」と「タイアップ+plus（プラス）事業」を実施した。

○チャレンジタイアップ事業・タイアップ+plus（プラス）事業実績

チャレンジタイアップ事業として選定 され・事業を実施した団体数／応募 団体数	4団体／4団体
タイアップ+plus（プラス）事業	7団体（8事業10講座実施）

- ・事業実施後の参加団体へのアンケートでは、タイアップ事業についての各団体の満足度は100%であった。また、参加者へのアンケートにおける主な意見としては以下のものがあった。

【チャレンジタイアップ事業】

〔生前整理と実家じまいのリユース活用術〕

- ・まず自分での分別、そして買い取りしてもらってから、不要品回収すると荷物が軽くなるという手順を知ることができたのが有り難かった。

【タイアップ+plus（プラス）事業】

〔身近なモノで防災備蓄、自助力を高めよう〕

- ・防災用品も日常使いしていつでも使えるようにすることの大切さが良くわかった。
- ・事業実施後には、住まい情報センターの SNS にセミナー報告を掲載するとともに、年間の事業報告としてタイアップ事業報告書を作成し、チャレンジタイアップ事業の企画提案募集のための PR ツールとして区役所及び図書館に配架し、タイアップ事業応募団体の新たな開拓にもつなげた。

○出前講座の実施

- ・住まい情報センターと連携して住まいに関する講座を実施している専門家団体や NPO 等の協力により、希望される地域にお伺いして、住まいや暮らしに役立つ講座を開催する出前講座を実施した。
- ・幅広い層の方に受講していただけるよう、大阪市社会福祉協議会や大阪市子ども・子育てプラザ等に対して積極的に広報活動を行った。

協力団体数	プログラム数※	実施回数	参加者数
5 団体	7 種類	12 回	244 人

※1 つの団体で複数ご協力いただいたプログラムを含む。

3. 利用者モニタリング等の実施状況

(1) 利用者モニタリングの実施概要

事業の実行や業務改善を実施していく過程を、指定管理者自身で適切に検証していくことが重要であるため、次のとおり業務に関するモニタリングに取り組んだ。

○事業企画会議の設置と開催

- ・各事業の新たな視点による事業展開の検討などを行うため、外部の学識経験者を交えた「大阪市立住まい情報センター事業企画会議」を設置し、会議を10回開催した。
- ・各事業の進捗状況や実績の推移等を確認し、センターの運営全般に関する様々な視点からの意見・提案をいただき、業務改善に繋げた。

○調整会議の設置と開催

- ・各事業の実施状況の点検・評価や、業務の効率的な運営を行うため、「指定管理調整会議」を設置し、会議を12回開催した。
- ・各事業の進捗状況や実績の推移等を確認し、事業計画書や年度協定書等の内容を確実に実施できているかどうかについて、点検・評価を行い業務改善に繋げた。

○大阪市立住まいのミュージアム運営協議会の開催

- ・住まいのミュージアムの運営にあたって、博物館（展示・調査研究）の分野をはじめ、教育やメディアなど、多様な分野の学識経験者等の専門家で構成する住まいのミュージアム運営協議会を令和7年12月に開催した。外部有識者からは、運営の評価や研究活動に対する助言等今後のミュージアム運営について貴重な意見をいただいた。

○「業務チェックシート」による自己点検・自己評価

- ・施設の管理運営状況や事業計画の実施状況、施設の有効利用等について、「業務チェックシート」を作成し、業務全般に関する自己点検・自己評価を毎月行った。

○相談事業データの分析と活用

- ・一般相談や専門家相談の個々の内容は、年代など相談者の属性と合わせて相談システムに入力し、全データを分析することにより、相談・情報提供の傾向を把握している。
- ・セミナーや企画図書のテーマ選定や広報紙「あんじゅ」の特集記事への反映など、普及・啓発事業、広報事業、ライブラリー事業、住まい・まちづくりネットワーク事業に活用した。

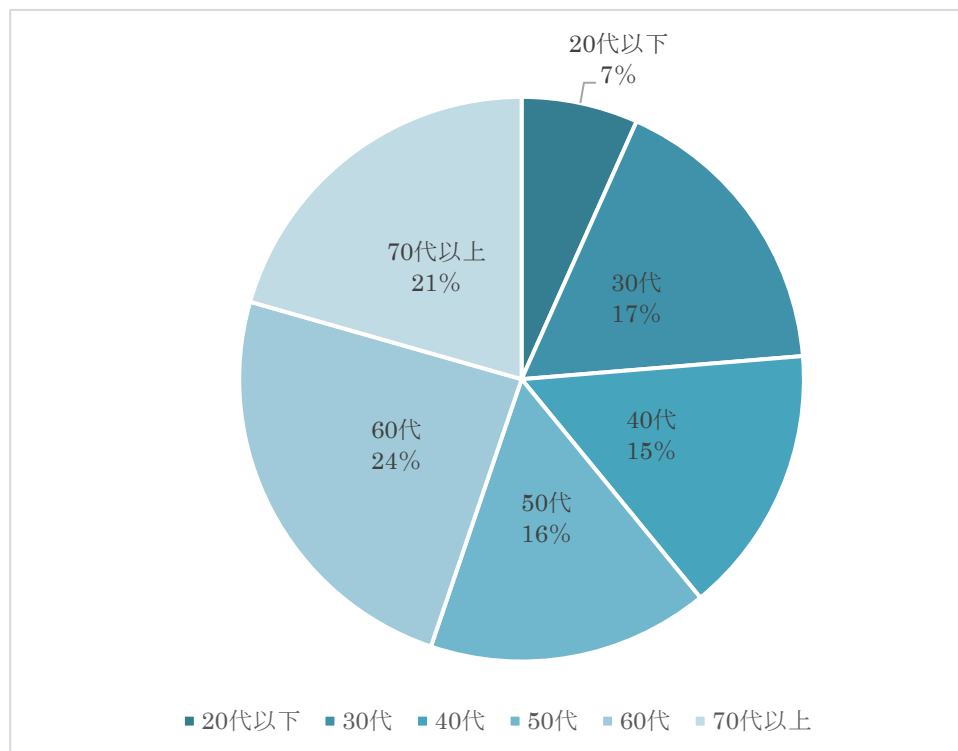
(2) 施設利用者満足度

相談対応時や、各種セミナー、ホール・研修室、大阪くらしの今昔館においてアンケートを実施し、利用者からの意見・感想等をお聞きした。これらの調査結果については組織内で共有し、センターの運営にあたって業務改善の参考とした。

《相談》

- ・利用者は60歳代がトップで24%、次いで70歳代以上が21%、30歳代が17%、50歳代が16%、40歳代が15%、20歳代以下は7%であった。

【住まいの一般相談利用者の年代別構成比】



【主な意見（抜粋）】

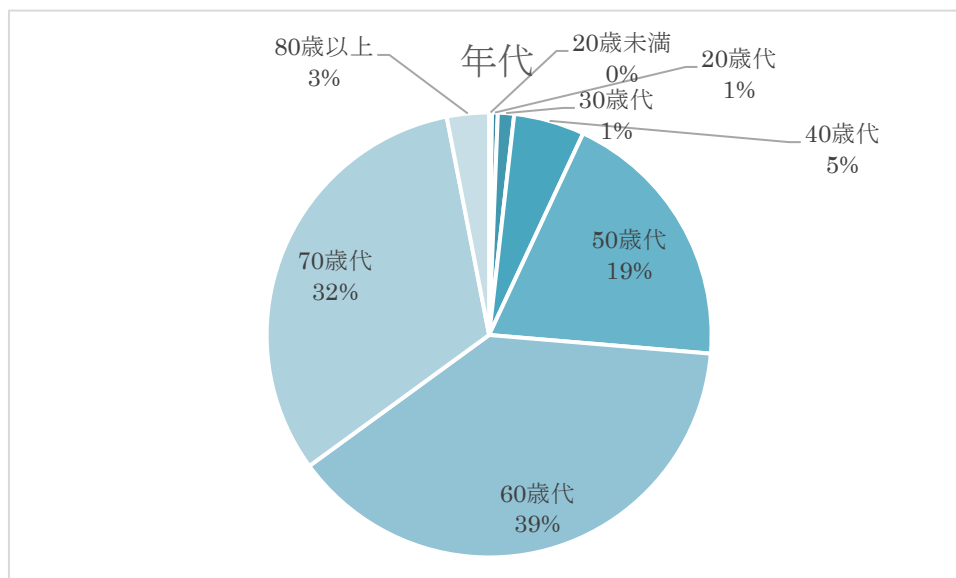
- ・相談をしっかりと聴いていただいて良かったです。ありがとうございました。
- ・いつもやさしく対応してくださり、ありがとうございます。
- ・ぼくは、このことをほこりにおもいます。ぼくは、ここがだいすき。
- ・住教育ワークショップコーナーに何度か来ている。子どもはおうちづくりが大好き。子どもを連れてくるうちに、こちらで住まいの相談ができることを知ったので、今日は、どうしようもない問題だとはわかりつつ、騒音問題の相談をしたいと思った。やはり解決は難しいが、納得できた。また子どもと一緒に来ます。
- ・住まい情報センターに相談できて心強かったです。ありがとうございました。
- ・こちらの話を受け止めて聞いていただけてありがたいです。

- ・相談ができる場があり、助かります。相談後、関連資料を頂き、住まい情報センターの相談員の方が丁寧に話を聴いてくださり気持ちが和らぎました。実際に足を運ぶと社会資源（相談先）も教えてくださり、遠方でしたが来てよかったです。ありがとうございました。

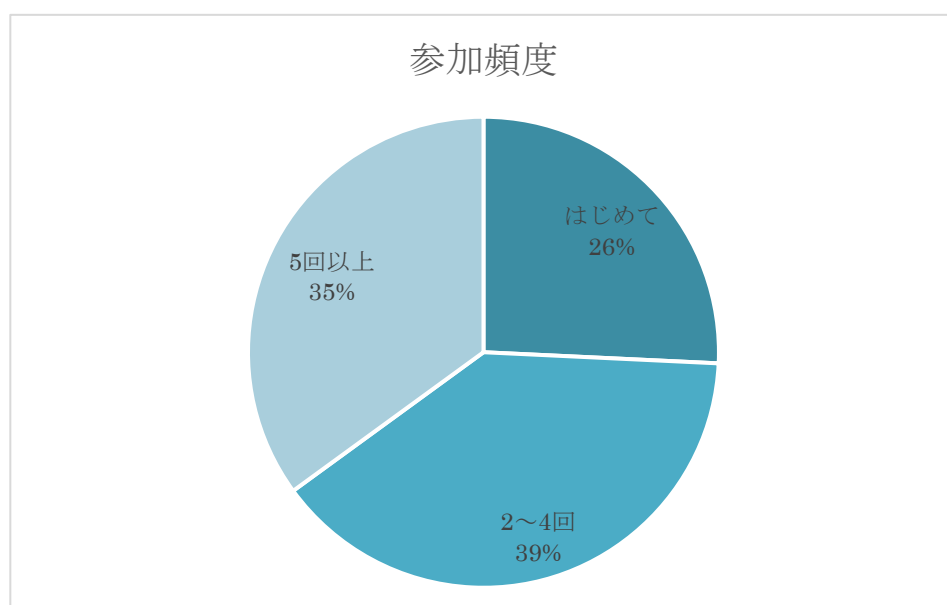
《セミナー・シンポジウム等》

- ・セミナー・シンポジウム等の参加者は、60歳代以上のシニア世代が7割以上を占め、次いで50歳代、40歳代の順に多かった。
- ・参加頻度については、「2回以上参加したことがある方」が74%と多く、リピーターが多いことがわかった。
- ・さらに、満足度については「大変参考になった」「参考になった」が98%と高い評価をいただいた。

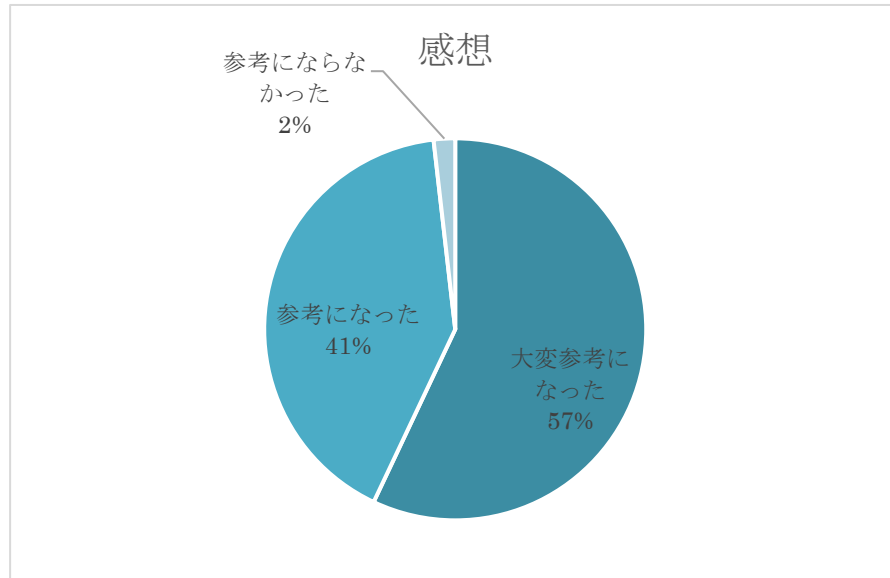
【回答者の年代別構成比】



【回答者の参加頻度】



【回答者の満足度】

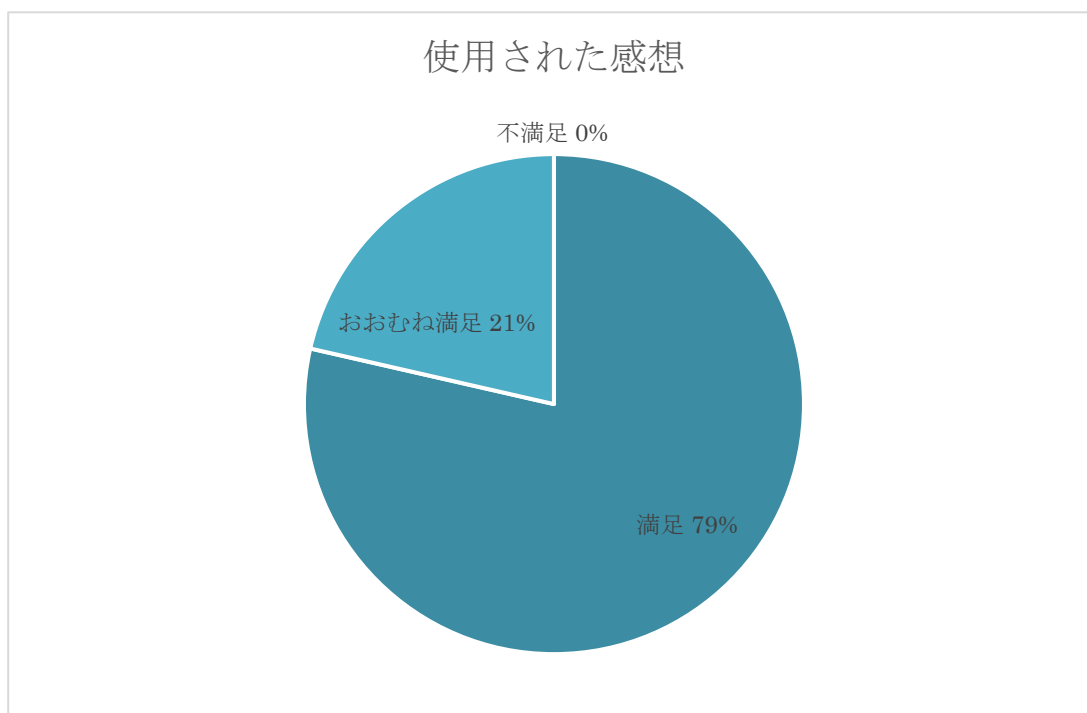
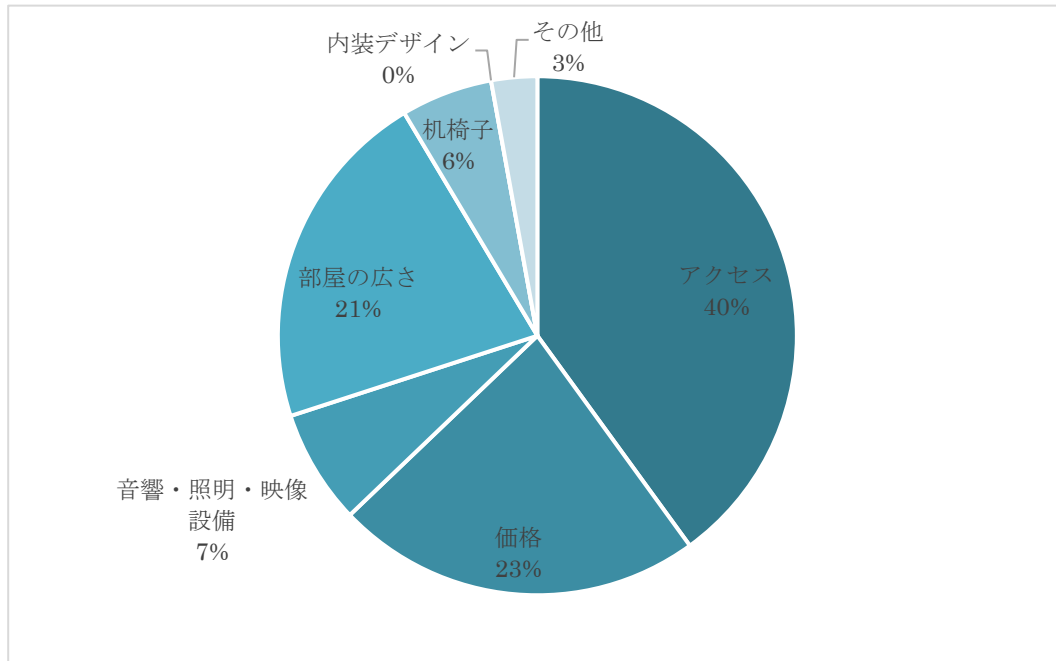


【主な意見（抜粋）】

- ・情報収集のための不動産関連のサイトをご紹介頂けたのも大変参考になりました。全般的に扱って頂いたうえ、配布資料にさせていただいたので後から見返せて助かります。／住まいの基礎知識連続講座住まいを購入する【第2回】住まい探し編「はじめての住宅購入～自分に合った住まい探し～」より
- ・子どもの「やりたい」を学生さんや専門の方が本気でサポートしていただけてうれしかった。／住まいと暮らしのワークショップ「まちつく万博～未来につながるまちをつくろう～」より
- ・あんなに大きな絵本があるなんて初めて知りました。パーツを選ぶところから楽しそうで、テーマパーク以上に喜んでいました。／ライブラリー事業「おはなし会&おうちをつくろう！」より
- ・アフリカや台湾など、知らなかった生活様式を見ることができて良かったです。和室を見直そうと思いました。又、台湾の植民地時代の話など、歴史の勉強にもなりました。ありがとうございました。／万博関連特別イベント国際シンポジウム「外国人から見た『和室』の価値」より
- ・中古の家のリフォーム、省エネ住宅5つの改修例とかが良かった。窓ガラスの説明、断熱材やむくの木の説明、実際に触られることが良かったです。／タイアップ+plus事業「省エネを意識して暮らし方を見直そう～脱炭素社会と私たちの暮らし方～」より
- ・宮部教授の“建築のリレー”でなぜ古い建物を残すのかという説明が非常に納得いくものだった。／ハウジングデザイン賞関連イベント「大阪市ハウジングデザイン講演会『借りて暮らす大阪―愛着の持てるリノベーション―』」より

《ホール・研修室》

- ・「アクセス」、「価格設定」、「音響・照明・映像設備」「部屋の広さ」を選ぶポイントとして挙げる声が多かった。
- ・「スタッフの接客対応」では満足したという声を多くいただいた。



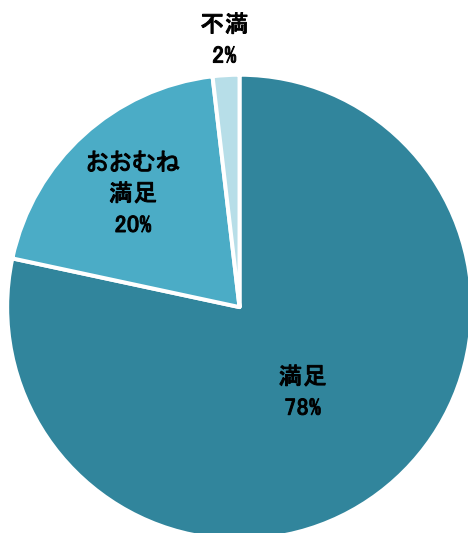
【主な意見（抜粋）】

- ・静かで良いです。きれいです。
- ・皆さんニコニコしていて感じが良い。
- ・こちらのしてほしいことにすぐに対応してくださり、とてもありがたかったです。

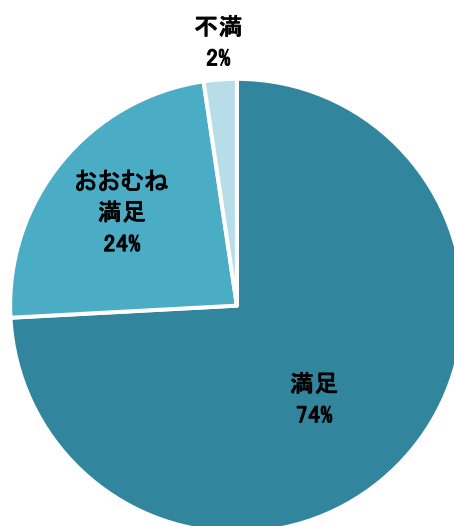
《大阪くらしの今昔館》

- ・今昔館全体や展示、イベント内容ともに「満足」「おおむね満足」がいずれも90%を超える高い評価を得た。

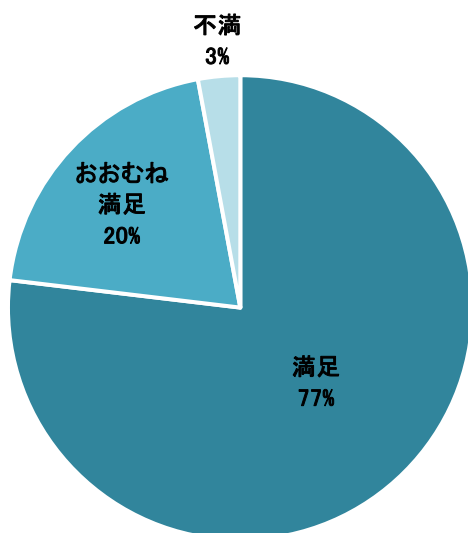
【大阪くらしの今昔館全体の満足度】



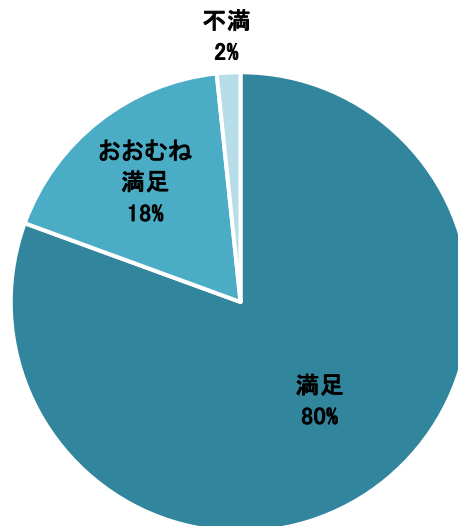
【イベントの満足度】



【スタッフ対応の満足度】



【展示内容の満足度】



【主な意見（抜粋）】

- ・町家ツアーがとてもたのしかったです。音声ガイドだけ、または見て歩いているだけではわからない細かい部分の解説をたくさん聞くことができました。とくに店の扉の開閉方法のバリエーションや、水入れ用の木札などが興味深く、勉強になりました。ツアーを通して1時間半とボリュームたっぷりだったので、もし可能なら始めに時間の目安だけ知りたかったかな〜と思います。友人知人と一緒にまたツアー聞きに来ます！
- ・Movie was really good!! I like how you just remove shoes and enter certain areas. The English translation was made very well! I will definitely do again!!!
- ・こういった施設に市税が使われる事に大賛成である。
- ・万博の歴史や大阪の発展、日本の発展の礎になったのがよく分かりました。万博も大切ですが、このような日ごろから気軽に歴史を知れる場所は大切ですね。ありがとうございます！情報又知りたいです。
- ・気になるところをスタッフさんに質問した時に、快く応対してくれてとても楽しかったです。
- ・町の中にある場所だったのもっと小規模かと思っていましたが、想像の何十倍も見ごたえがありました。ずっとついて解説してくださった方が、文化の違いをたくさん教えて下さり江戸出身としてはとても勉強になりました。本当にありがとうございます。
- ・江戸時代のくらしが分かった。子どもにもすごくわかりやすい！おもしろかった♡
- ・想像以上に面白く有意義だった。米朝さんの語りが良かった。米朝さんが大変なものを大阪市が作ったと言っていたが私も驚きました。企画展の古民家は、うちも去年築100年の商家をやったのでよくわかりおもしろかった。
- ・楽しかった。現代の住所もわかりやすく一緒にあると良い。
- ・残念なのは、ミュージアムショップ。外国人向けに京都や浅草などどこにでも売っている雑貨ばかりで、オリジナリティがない。
- ・クイズ（動物探し）にヒントがあったらいいなと思いました。
- ・八千草さんのナレーションのベンチがもう少しあると嬉しいです。
- ・ロッカールームに両替機を設置してください。ロッカー使用時に100円硬貨がなく、仕方なく自販機で麦茶を買いました。
- ・音が怖かった（4才）

4. 自主事業

住まい情報センターの設置目的に寄与する充実したサービスを利用者に提供するため、自主事業を実施した。原則有料でのサービス提供により、自主事業実施のための財源を確保した。

令和7年度自主事業

	タイトル	内容	実績
広報事業	広報誌「あんじゅ」の広告掲載	広報誌「あんじゅ」に広告を掲載します。	1枠
	ホームページのバナー広告掲載	ホームページのバナー広告を掲載します。	0枠
	パンフレットラックの広告掲載	ホール等に設置したパンフレットラックを活用し、広告やチラシ等を掲載します。	@2,000円×9回
貸室業務	ホール・研修室での飲食対応	ホール・研修室使用時での飲食を希望される利用者にも、特別清掃料をいただき対応します。	22件
展示事業	ロケーションフォト	新郎新婦の衣装が和装であることを条件に9階展示室で結婚記念写真を撮影していただくサービスを実施します。	1回
	着物体験	近世展示室において着物姿で江戸時代のまちを散策することができる着物着付けサービスを提供します。	29,467人
	ものづくり体験ワークショップ	木版画・折り紙・万華鏡づくり・つまみ細工等のワークショップを実施します。	通年
	博物館実習の受入	博物館学を履修している大学生の実習生を受け入れます。	6人
	図録販売・リーフレット等刊行物販売	図録やリーフレット等の、施設に関連する刊行物を販売します。	適宜
	年間パスポート販売	年間を通じて常設展・企画展に入場できるパスポートを販売します。	61枚
	スーツケース等置き場の利用料	大型スーツケース専用置場を貸出します。	532個
	学芸員特別講座	企業等が開催する歴史・文化講座への講師派遣の要請に応じて、当館展示や収蔵品に関連した講座を提供します。	4回
	建築プログラム(匠の技を体験)	建築・不動産関連企業の新研修等にむけて軸組み模型を用い、実物の小屋組みを見ながら日本の伝統建築技術を学習する建築プログラムを有料で実施します。	9回
	ミュージアム所蔵品画像貸出	ミュージアム所蔵品画像の制作・貸出を実施します。	12件
	旅行会社と連携し天満・天神地域の魅力発信と集客	旅行者が主催する文化観光スポットや歴史を紹介する講座に協力しミュージアムや天満・天神地域を広く周知する。	0回
その他	自動販売機の設置	自動販売機を3階・4階・5階・8階の各フロアーに設置します。	通年
	ミュージアムショップ	ミュージアムショップを設置し入館者に販売します。	通年
	コピーサービス	4階にコピー機を設置し、来館者の利用に供します。	通年
	VR体験	今昔館で歴史監修をおこなった近世から現代の大阪の町並みの立体映像体験を、大阪外ロードエリアを実施するための場所を有償で提供する。	令和7年7月18日～実施

5. 収支決算状況

令和7年度 大阪市立住まい情報センター 管理運営業務収支報告書

1. 収入

(単位：税込円)

項目	(R7計画)	(R7決算)
1.利用料金収入	205,971,000	127,299,361
2.自主事業収入	39,618,000	38,795,949
計 (A)	245,589,000	166,095,310

2.業務代行料

項目	(R7計画)	(R7決算)
1.業務代行料	271,624,000	271,624,000
計 (B)	271,624,000	271,624,000
収入合計 (A)+(B)	517,213,000	437,719,310

3.支出

項目	(R7計画)	(R7決算)
1.人件費	252,605,893	227,048,735
2.事務費	11,036,509	10,559,220
3.維持管理費	69,746,215	64,804,128
4.事業費	84,532,543	73,134,360
A 相談事業	4,765,000	9,307,112
B 普及・啓発事業	4,710,000	3,103,840
C 広報事業	13,436,000	11,062,260
D ライブラリー事業	1,946,000	1,559,742
E ホール・研修室等運営事業	6,961,000	869,443
F 展示事業	40,217,043	37,540,351
G 住まい・まちづくりネットワーク事業	3,497,500	511,423
H 万博	9,000,000	9,180,189
5.共通経費等（自主事業分も含む）	44,471,000	53,901,507
6.その他（自主事業等）	28,202,000	21,904,524
7.租税公課	26,619,000	23,878,070
支出合計 (C)	517,213,000	475,230,544

4. 利益

計 (D) = 計 (A)+計 (B)-計 (C)	△ 37,511,234
---------------------------	--------------

上記のとおり報告します。